



■ 舞台平面図

①鏡の間	②揚幕	③橋掛り	④三の松
⑤二の松	⑥一の松	⑦後座	⑧鏡板
⑨切戸口	⑩階(きざし)	⑪地謡座	⑫シテ柱
⑬笛柱	⑭ワキ柱	⑮目付柱	⑯白州

能楽堂とは
 能を上演する専用の舞台を能舞台といい、四本の柱に囲まれた三間(約6m)四方の本舞台を中心として、右側に地謡座、正面奥に後座と松の描かれた鏡板をもち、左側に長さ四間ほどの橋掛りを備えた独特な形をしています。

この能舞台は元々屋外にあり、野天の白州や対面する建物が客席になっていましたが、明治以降、屋根付きの舞台と付随する楽屋客席ごと建物に収容され、能楽堂と呼ばれるようになりました。

昔ながらの屋外舞台も全国に数十カ所現存しています。

【チケット料金】(税込) **全席指定**

- ◆ S席 …… 8,000円 ◆ B席 …… 5,000円
- ◆ A席 …… 6,000円

【チケット取り扱い】 6月10日(金) 午前10時より

- ◆ 電話 (有人対応 平日10時~12時、13時~15時)
 チケットスペース ▶ 03-3234-9999
- ◆ インターネット
 e+イープラス ▶ <http://eplus.jp/> (PC・携帯共通)

*販売は上記に限り承ります。
 *本公演は未就学児のご入場をご遠慮頂いております。

会場 **観世能楽堂** 東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3F
 TEL.03-6274-6579

- 最寄駅
- 銀座駅 / 東京メトロ銀座線・日比谷線・丸の内線…A2・A3出口より徒歩2分
 - 東銀座駅 / 東京メトロ日比谷線・都営浅草線…A1出口より徒歩3分
 - 有楽町駅 / JR山手線・京浜東北線・東京メトロ有楽町線…銀座出口より徒歩10分

【お願い】

- *上演中の撮影、録音、録画は固くお断り致します。
- *上演中はアラーム及び携帯電話の電源をお切り下さい。
- *出演者はやむを得ぬ事情により変更させて頂く場合がございます。
- *今後の状況により、公演が中止または変更になる場合がございます。

《新型コロナウイルス感染防止対策にご協力下さい》

来館前の検温実施	手洗い実施	場内における会話は極力控え下さい
マスクの着用	手指の消毒	37.5度以上の発熱、咳、咽頭痛などの症状がある場合は来館をお控え下さい

- *館内での持込みのお食事はご遠慮下さい。
- *舞台進行演出が常と異なる場合があります。

◎対応策は、状況に応じて適宜変更していく可能性があります。最新情報は能楽協会公式サイトにてご案内致します。

◆ 公演に関するお問合せ ◆ ※チケット販売受付は致しませんので予めご了承下さい。
 公益社団法人能楽協会 東京支部 ☎03-5925-3871 / <https://www.nohgaku.or.jp/>

第四十四回

納涼能

ユネスコによる
 人類の無形文化遺産「能楽」



能 金剛流「籠」
 金剛 龍謹

能 宝生流「鞍馬天狗」
 宝生 和英

2022年7月15日(金)
 開場 / 午後1時 開演 / 午後2時
 会場 **観世能楽堂**
 主催 / 公益社団法人能楽協会 東京支部

文化庁文化芸術振興費補助金
 (舞台芸術創造活動活性化事業)
 独立行政法人日本芸術文化振興会

撮影「籠」宮本 成美 / 「鞍馬天狗」宝生写真部

ごあいさつ

納涼能は本年第四十四回を迎えました。

これもひとえに皆様のご支援の賜物と深く感謝しております。

シテ方五流総出演、どなたにも理解しやすい曲目、能楽師によるミニ講座と、当支部ならではの企画となっております。

お暑い時期ではございますが、能楽に親しむ良い機会かと存じます。

万障お繰り合わせの上、ご来場賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

東京支部長 朝倉 俊樹

番組組

〈開演 午後二時〉

三二講座 宇高 竜成

能 (金剛流)

後シテ (猿蓑本幸の霊) 前シテ (男勇・孝の霊) 金剛 龍謹

ワキツレ(從僧) 村瀬 提
ワキ(猿僧) 福王 和幸
ワキツレ(從僧) 矢野 昌平

大鼓 佃 良勝
小鼓 曾和 正博
笛 一噌 隆之

アイ(里人) 山本泰太郎

後見 豊嶋 幸洋
山田 伊純

地謡 熊谷 伸一 坂本立津朗
元吉 正巳 宇高 竜成
工藤 寛 豊嶋 晃嗣
田村 修 宇高 徳成

休憩 二十分

〈三時四十五分頃〉

狂言 (和泉流)

隠 狸 シテ (太郎冠者) 三宅 右矩

アド(主) 三宅 右近

後見 金田 弘明

仕舞 (金春流)

高 砂 金春 憲和

地謡

辻井 八郎
本田 光洋
高橋 忍
山井 綱雄

仕舞 (観世流)

柏 崎 観世 喜之

地謡

谷本 健吾
梅若 紀彰
角 寛次朗
中森 貫太

仕舞 (喜多流)

野 守 塩津 哲生

地謡

塩津 圭介
内田 成信
狩野 了一
大島 輝久

休憩 二十分

〈四時五十分頃〉

能 (宝生流)

子方 (花見鬼) 大坪 海音
子方 (牛若) 水上 嘉
子方 (花見鬼) 出雲路 啓

宝生 和英

鞍馬天狗

後シテ (大天狗) 前シテ (山伏)

ワキ(東谷の僧) 森 常好
ワキツレ(從僧) 館田 善博
ワキツレ(從僧) 野口 能弘

大鼓 亀井 実 太鼓 桜井 均
小鼓 森澤 勇司 笛 松田 弘之

アイ(能力) 大藏吉次郎
アイ(赤美狗) 大藏彌太郎
アイ(赤美狗) 吉田 信海
アイ(赤美狗) 小梶 直人

後見 大坪喜美雄
山内 崇生

地謡

藪 克徳 佐野 登
亀井 雄二 金森 秀祥
和久莊太郎 辰巳満次郎
小倉伸二郎 水上 優

附 祝 言

〈終了予定 六時五分〉

能 籠

えびら

僧が西国から都への旅の途上、生田川の畔の梅花を眺めていると、其処に若者が現れ、この世に妄執が残つて成仏できぬ身を嘆きます。僧がこの梅は名木かと問うと、源平合戦で梶原景季が一枝を籠に挿し戦い功名を立てたのでこれを神木と崇め、今は「籠の梅」と呼ばれていると教えます。更に、一の谷に於ける源平の布陣や合戦の様を物語り、自分は景季の幽霊であると名乗って消え失せます。

夜になり、僧が梅の木陰に臥していると、武者姿の景季が現れ、修羅道の苦患の様を見せます。梅花を籠に挿して敵中に突入し縦横無尽に奮戦する鮮やかな闘いぶりを見せ、やがて夜が明けるとともに、僧に回向を頼み、花の下に消えてゆきます。

狂言 隠 狸

かくしたぬき

客人に狸汁を振舞うため、主人から狸を捕まえてこいと言いつけられた太郎冠者。しかし太郎冠者は狸など釣つたことがないと言うので、主人は市場へ行つて狸を買つてこいと命じます。実は昨晚も狸を捕まえていた太郎冠者は、嘘がばれる狸を売つてしまおうと市場へ向かうと、先回りしていた主人と鉢合わせます。

和泉流のみにある演目で、釣つた狸を隠し通そうとする太郎冠者と、その尻尾を掴もうとする主人の駆け引きが見所です。

仕舞 高砂

たかさご

阿蘇の宮の神主友成は、高砂の浦で老夫婦に出逢います。この夫婦は高砂・住吉の相生の松の仮の姿であり、友成が住吉に来て待っていると、住吉明神が現れ、御代安泰の祝福の舞を舞います。仕舞では、後シテ住吉明神の颯爽とした舞を演じます。

仕舞 柏崎

かしわさき

越後国柏崎殿の妻は、夫が鎌倉で病死し、その上息子は出家して行方知れずになったと知り、悲嘆に暮れ信濃国善光寺へと出奔します。妻が仏前で形見の衣裳を纏い夫の冥福を祈つて舞ううちに、寺僧の引き合わせによって我が子と再会を果たすのでした。「道行」では、柏崎を発つた妻が、善光寺へ至るまでの道中を演じます。

仕舞 野守

のもり

羽黒山の山伏が春日野で野守の老人から「野守の鏡」と呼ばれる池の謂れを聞きます。祈祷する山伏の前に塚の中から鬼神が鏡を持つて現れ、天上界から地獄の底までを映し出した後、大地を踏み破つて去って行きます。仕舞では後シテの鏡を持つた鬼神が豪快に舞う場面を演じます。

能 鞍馬天狗

くらまてんぐ

春の京都、鞍馬山で稚児を伴つた東谷の僧達が花見の宴を楽しんでいると、一人の山伏がいつの間にか上がり込んでいました。同席を嫌がった僧達は一人の稚児を残し去って行きます。すると、その稚児が山伏に声を掛けてきました。山伏は、稚児が牛若丸であると察し、近隣の花見の名所などを見せ、自分は鞍馬山の天狗であると明かし、驕る平家を滅ぼす為の兵法を伝授する事を約束し、姿を消します。やがて、仕度を整え待つ牛若丸の前に威厳に満ちた堂々たる姿の大天狗が現れ、兵法の秘伝を伝え、将来平家一門との戦いで必ず力になるうと誓い、夕闇の鞍馬山を翔け、飛び去っていきます。今回の小書白頭では、大天狗の頭髮が通常の赤から白になり、鹿背杖について現れ、後半の舞働では牛若丸から長刀を受け取り舞います。